

大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」主催
「コンフリクトの人文」セミナー第 44 回
「横断するポピュラーカルチャー」研究ワークショップ

貧魂社会ニッポンに宗教は必要か

講師：渡辺順一氏

(金光教羽曳野教会長／soul in 釜ヶ崎／大阪希望館事務局次長)

日時：2月20日(土) 13:30～18:10

会場：大阪大学豊中キャンパス

共通教育管理講義棟A棟 **共A102 講義室**

参加自由・無料

(チラシの裏面に、詳しい趣旨説明、問い合わせ先についての情報があります。)

第一部：金光教・soul in 釜ヶ崎・大阪希望館

13:30～16:20

(10分間休憩)

第二部：テキストと実践をめぐって～教祖と戦争責任～

16:30～18:10



「魂のホームレス」の時代に。

「貧困」がさかんに語られている。マスコミでは派遣切り、雇い止め、ネットカフェ難民、派遣村などといった言葉たちがあふれる。生きづらさを抱える人びとが増加しつづける状況に、正面から対峙しようとする人びとも増えつつあるといえるが、その中に宗教者の姿をみつけることは難しくない。宗教集団にとって「救貧」の事業は、古くから修養の、また伝道の基本的なオプションのひとつとしてあり、それ自体はさして目新しいものではないだろう。しかし今、教団の枠組みを越え、あるいは既存の「宗教」という枠組みを批判的にとらえなおしながら、「貧困」あるいは「救貧」などといった概念にも問いをさしむけようとする宗教者たちがいることは、もう少し注目されてよい。

2003年から活動をつづける「soul in 釜ヶ崎ー野宿者問題を考える宗教者連絡会(ソルカマ)」は、その重要な事例といえるだろう。この運動体は、会規約もなく、教団を越えた、出入り自由な宗教者のネットワークとして機能している。積極的にかかわってきた金光教教師・渡辺順一氏によれば、現代の「格差社会」の問題は、経済的な領域にのみかかわるものでもなければ、失業や不安定就業、「貧困」へと追いやられている人びとにのみかかわるものでもない。多くの人びとは「居場所」であるかのように仮構された市民社会内部の様々な場所で、淋しさを抱えながら、孤独に倒れるまで戦いつづけることを強いられている。そして、野宿者たちを自らの生活圏から排除し、仮の「居場所」にしがみつく。人びとの「魂」は休息の場を求めてさまよっている。ソルカマ流に言えば、この国は今「貧魂社会ニッポン」なのだ(soul in 釜ヶ崎編『貧魂社会ニッポンー釜ヶ崎からの発信』アットワークス、2008年、参照)。

渡辺氏は、“神から選ばれた者”としての宗教者・信仰者が、凹んだ場所にいる人びとをのぞきこみ、手を差し伸べようとする従来の宗教集団による「救貧」の思想にも厳しい目を向けている。自教団の教祖に関わるテキストを読みなおす作業を通じて、彼は凹地(くぼち)をのぞきこむのではなく、凹地に視点を移し、そこから人間が生きる世界全体をみつめなおすことを志向する。そこにおいては、「宗教」の内側に身を置く渡辺氏自身が厳しく問い直されることにもなるのだろう。

こうして渡辺氏らの目指す社会運動は、「宗教」から逸脱していくのだが、それでは教義や信仰などほっぽりだして、世俗的な社会運動にまい進すればよいのだろうか？ おそらく(少なくとも今の)渡辺氏の答えは、否であるだろう。自教団の植民地布教、戦争協力の問題などを問い続けてきた金光教学者としての渡辺氏は、「宗教」を越えるそのときにも、教祖にかかわるテキストを手放さない。それはむしろ、ソルカマでの超「宗教」的な実践のあり方を示す大切な指針として読みなおされているようだ。もしかすると、このあたりに、宗教伝統と呼ばれるものの新たな可能性が開かれているのかもしれない(あるいは開かれていないかもしれない)。

本セミナーでは、渡辺順一氏を講師に迎え、彼の金光教教師としての宗教活動・教学研究者としての実践・ソルカマでの活動をめぐって、この三者がいかに関連しながら作動している(しうる)のかを考えてみたい。さらに、大阪労働者福祉協議会や宗教団体、連合大阪などが呼びかけて昨年設立され、渡辺氏が事務局次長を務める大阪希望館についてもお話を伺うつもりである。大阪希望館は、仕事と住まいを失った人にとりあえず緊急に「住まい」と「食」を提供し、再出発の方向と方法を一緒に考えられる時間と場所として位置づけられている。こうした試みの意義と展望について考える機会にもなれば幸いである。

(司会・企画 永岡崇 文学研究科博士後期課程・当プロジェクトRA)

お問い合わせ：

「横断するポピュラーカルチャー」研究プロジェクト

(大阪大学GCOE「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」)

メール：crossing-popularculture@let.osaka-u.ac.jp (古川)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/crossing-popularculture>